

林大だより



第91号 令和8年3月16日

長野県林業大学校翌協会



令和7年度 卒業式

ご卒業おめでとうございます

翌松会 会長 牧野 博臣



長野県林業大学校第四十六期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。それぞれの決めた進路に将

来の展望をもって過ごされておられることでしょう。皆さんが新しいステージでご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

この誇り高き長野県林業大学校に入学した頃を思い返してみてください。新しい出会いがあったはずで、これからも新しい出会いがあること

でしょう。その出会いは新しい友人だけに留まらず、先輩や上司など自分の考え方や生き方に少なからず影響を与えることと思いますが、将来への歩みを決めた初心を胸に、受け入れるべきは受け入れ人間力を高めていかれることを願っております。

た、昨年六月には二十年に一度のわが国最大の祭りである伊勢神宮式年遷宮の一部儀式（御杵始祭）が上松町で執り行われ、そこに参加できたことも思い出深いことではないでしょうか。

最後に、千村校長先生はじめ教職員の先生方には学生はもとより、翌松会会員も大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

ATMで5Sを目指そう！

長野県林業大学校 校長 千村 広道



林大四十六期生の皆さん、そしてこれまで支えてこられた保護者の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

ATMで行こう！と今年一月の始業式で皆さんに話したことを覚えていますか？
A：明るく、T：楽しく、M：前向きに、これからも学生生活を取り組もうとお伝えし、本当に皆期待に込めてく

そんな皆さんに「5Sを目指そう」と嘘（はなむけ）の言葉を贈ります。これは皆の先輩方の提言です。

ケガをせず Safety
効率的に Smooth
カッコよく Smart
稼ぐ！ Salary

の提言をされました。持続可能という概念が一般的に脚光を浴びる前でした。そして、こうなっ

れましました。実習の時などに学生の皆さんと話した際、それぞれが林大で学んだ先に明確な目標を持って取り組んでいた姿勢も印象深く残っています。

まず、二〇一六年六月に長野県で開催された全国植樹祭の関連行事「全国林業後継者大会」（飯山市）の中で当時の林大生が「これからの明るい林業を目指す担い手からの提言」として、林業の課題4K（危険、きつい、汚い、給料が安い）から脱却し、林大生が望む林業の理想像を「新・林業4K4S」として提言されました。

林業は肉体労働ではなく頭脳労働であり、現場をよく見て自分の頭で考える必要があること、欧州のような子ども憧れの職業、誇り高い仕事にしたいといった思いも伝えられました。

これからそれぞれの道で活躍される皆さんとともに、私も在校生も未来の林大生もATMで5Sを目指したいと思います。

新天地での活躍を期待しています。

持続的 Sustainable

次代を作る担い手として大いに活躍を

長野県林務部長 根橋 幸夫



し、心より御祝い申し上げます。あわせて、日頃から学生の成長を支え、温かく見守ってくださった保護者の皆様、地域の皆様、本校関係者の皆様に深く感謝いたします。

林業大学校四十六期生の皆さん、卒業おめでとうございます。学校の設置者を代表

し、心より御祝い申し上げます。あわせて、日頃から学生の成長を支え、温かく見守ってくださった保護者の皆様、地域の皆様、本校関係者の皆様に深く感謝いたします。

これからを担う林大生へ

王滝村長 越原 道廣



ナー、例えば名刺の渡し方や車の乗り方などについても話したことを、今も覚えて

昭和五十七年三月、私は林大二期生として卒業し、まもなく四十四年になります。卒業後は長野県職員として林務行政に携わってまいりました。その間、林大では林道工学や測量の講義を担当し、授業の傍ら、社会人としてのマ

さて、林大を卒業して得た最大の宝は、寮生活を共にした同期をはじめ、先輩・後輩とのつながりが今も続き、私生活でも仕事の上でも頼れる仲間が大勢いることです。卒業して間もない頃はあまり意識しなかったものの、年を重ねるほど、そのありがたさと大切さを強く感じるようにな

にふさわしい地です。本年度は、伊勢神宮の式年遷宮に向け、御植代（みひしろ）になる二本の天然木曾檜の御神木を、伝統的な三ツ紐伐りで伐り出す御植代祭が行われました。皆さんが、杣人の方々と御神木を引き出したことは、林業を志す者としての手応えを実感する、心に残る貴重な経験になったはずです。

本校は、「木曾谷・伊那谷フォレストバレー」の中核拠点として、近隣の教育機関や

りました。皆さんも、きっとそう感じる時が訪れると思います。どうか学生時代の二年間の出会いを、これからも大切にしてください。

卒業から四十四年の間に、林業技術は進歩し、森林に対する期待も多様化してきました。育てる林業から、伐採し利用し、そして植える時代へと移ってきています。先人たちが育んできた森林の価値をさらに高め、次の世代へどう引き継いでいくのか、今まさに、その転換期にあると云ってよいでしょう。

人口減少に伴う担い手不足、地球温暖化などに伴う自然との調和といった課題は多

試験研究機関等と連携し、実習、課外活動、発表の機会を通じて、実践的で質の高い学びの機会を提供してきました。中学、高校期にコロナ禍で制限を受けた皆さんも、本校で多彩な授業や資格取得、地域行事への参加、仲間との密な全寮生活を通じて、大きく成長されたことと思いません。

現在、社会はかつてない速さで変化しています。困難に直面した時には、本校で培っ

く、決して簡単ではありません。しかし、日本の国土の多くを占める森林の中で、皆さんがどのように力を発揮し、活かされていくかは、お一人お一人のこれからにかかっています。決して大きなことを成し遂げてほしいという意味ではありません。自分と与えられた役割を、それぞれの立場で考え、実行していただきたいと思います。

人口減少が進む昨今、とりわけ専門人材の不足が一層進むのではないかと危惧してお

た人生を切り拓く力と仲間と学び支え合った経験を思い起こしてください。本校での学びは、きっと皆さんの考え方や行動の礎となり、前へ進む力を生み出してくれることでしょう。どうか学びを止めることなく、次代を作る担い手として、大いに活躍されることを心より期待しています。

ります。だからこそ、未来につながる山づくりを担う存在として、林大生の皆さんに大いに期待いたします。



アダプト活動(球根・パンジー植え)(11月)

追悼



開校以来長年にわたって森林生態学・森林環境学の講師を務められた只木良也先生が令和七年十二月に御逝去されました。

平成九年には只木先生から本校にいただいた御寄付により「只木基金」を設立し、それ以降毎年度の卒業式で優秀な学生に「只木賞」を贈っています。

只木先生のこれまでのお導きに感謝し、これからも只木賞を続けさせていただきます。心から御冥福をお祈りします。

校長 千村広道

学生のページ

あすなるの呟つぶやき

学校・寮生活から

一年間を振り返って



1 学年 上島弘太郎

長野県林業大学校に入学して、早くも一年が経ちました。

た。入学当初は、初めての寮生活への不安や、新しい環境に馴染めるか、普通科の高校に通っていたため、専門分野の授業についていけるかという不安でいっぱいでした。特に林業に関する知識や技術はほとんどなく、基礎から学ぶ必要があると感じていました。しかし、実際に入学してみたら、寮生活は思っていた

以上に楽しく、勉強面も仲間との助け合いによって、理解を深めることができました。一年生の授業では、林業に関する専門的な内容だけでなく、一般教養科目を通して幅広い分野に触れることができました。実習では実際の現場で作業を行うことで、安全意識や協力することの大切さを学びました。来年度からは二年生として、進路や資格取得についても真剣に考えていく必要があります。一年目で得た経験を生かし、残りの学生生活をより充実したものにしていきたいです。



1 学年 11月 治山工学現地研修



1 学年 12月 特別講座（高所樹上作業）

一年を振り返って



1 学年 佐藤 光

長野県林業大学校に入学して、早くも一年が経ちました。これまでの生活とは大きく変わる、学びの多い時間でした。座学だけでなく、山に入り実際に木に触れながら学ぶ実習が多く、林業は体力や集中力だけでなく、判断力や責任感も求められる仕事だと実感しました。最初は慣れない作業や厳しい環境に戸惑うこともありましたが、仲間と協力しながら乗り越える中で、少しずつ自分の成長を感じるようになりました。また、先生方の現場経験に基づいた指導から、林業の奥深さややりがいも学ぶことができました。この一年で得た知識と経験を大切にし、これからの学びにつなげていきたいです。



1学年 1月 測量学 (レベル)

二年生になる
と卒業後の進路
を明確にしなけ
ればなりません。
今年はいん
ターンシッパや
実習に積極的に
取り組み、自分
が本道に進みた
い道を見つけ出
す一年にしたい
と思います。



1学年 知久 絢音

一年を振り返って

長野県林業大学校に入学して早くも一年が経とうとしています。入学当初は初めての寮生活や通っていた女子高校とは真反対の男性が多い生活、また授業についていけるかなどたくさん不安があり

ました。しかし、四月の屋久島研修等たくさん授業や生活をしていくなかで、先輩や同級生との絆を深めることができました。普通科からの進学だったため専門科目が不安でしたが、授業や実習を通して少しずつ知識が身につけてきました。また、この学校に入学してから始めたチェンソーでは、まだ知らないことばかりですが、先生や二年生に教えていただきながら楽しく練習しています。入学してからのすべてが新しい経験であり、人として少しずつ成長

することができていると実感しています。



1学年 向井 鉄太

一年間を振り返って

林業大学校に入学しておよよそ一年が経ちました。入学した頃は寮生活、先輩との上下関係などで多く苦労する面がありました。今では少し



1学年 1月 小型移動式クレーン玉掛け講習

ずつ慣れてきて、仲間たちと仲良く過ごしていくうちに要領よく過ごせるようになってきました。授業面では、高校が林業科だったこともあり、専門科目では高校の復習を兼ねて、林業や樹木に関する知識を深めていくことができました。しかし中高と大の苦手だった一般科目で地獄を見ている。日常の授業は理解が追い付かず、時間だけが過ぎていき、自主学习でどうにかしようとしたがあまり



2学年 10月 架線講学 (運転)

進まず、試験前には優秀な友人たちに縋り付いております。最低でも追試で踏ん張ってなんとか一年持ちこたえました。自分の根性と意地を褒めたいと思います。
二年生までもう少しとなりました。専門科目もより難しくなってきました。北海道研修や友達と楽しい寮生活を過ごしていくために、これからも持ち前の根性と意地で、血反吐を吐きながらも精一杯頑張ります。

頑張ったこと



2学年 伊藤 優祐

長野県林業大学校に入学生た当初、林業についての知識や技術がほとんどなく、不安と緊張でいっぱいでした。特

にチェーンソーの実習では、扱いの難しさや危険性に恐怖を感じ、思うように作業ができず、何度も失敗しました。しかし、先生方や外部の講師の方々の丁寧な指導や仲間の支えにより、少しずつ基本動作を身につけることができました。

一年生の冬頃から競技の練習を始め、夏休みも毎日練習を重ねたことで、十月に開催された日本伐木チャンピオン

シップや、十一月に開催された三林大で満足のいく結果を出すことができ、自分の成長を実感しました。

卒業を迎えた現在では、不安よりも達成感と自信が大きくなり、ここで学んだことを職場で生かしていきたいと強く感じています。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

楽しかった二年間



2学年 北原 睦晴

林大での二年間は、あっという間に過ぎてしまいました。が、バターを丸ごと使ったオムライスくらいとても濃厚な日々でした。初めての寮生活、初めてのチェンソー、初めての遊戯、初めての木曾の地域行事への参加、初めての北海道など、毎日が艶やかなきゅうりのように新鮮で、いろいろな経験をさせていた

くことができました。林大に入る前の私が死ぬときの走馬灯は、おそらく九十九%がサラダ軍艦でしたが、この林大での記憶により軍艦の割合は九十八%になったと思います。そのような意味で、とても成長のある二年間でした。

多くの方にお世話になり、楽しい二年間を過ごさせていただきありがとうございました。今までありがとうございました。また、このことを忘れずに林大での学びを糧にして、これから林業

に励み、軍艦の割合をもっと減らせるように努力したいです。改めてありがとうございます。



2学年 10月 木材利用コース (上松技術専門学校)

林大で過ごした二年間



2学年 清野 嗣

二年間の林大生活がもう少して終わりになろうとしています。林大に入學してから二年間はあっという間でした。最初は不安だった寮生活も四十六期のおかけですぐに打ち解けることができました。

門科目の授業はどれも新鮮で、さまざまなことを吸収することができました。二年生になってからは、より色々な目標を持って努力することができました。寮祭の運営やチェンソーの大会なども経験させていただき、いい思い出になりました。就職してからチャレンジ精神を忘れず、新しいことに挑戦していけたらと思います。ここまで見守りサポートしていただいた、先生方、地元の方々、そして家族、二年間一緒に過ごした四十六期のみんな、本当にありがとうございました。



2学年 10月 林業機械学実習 (伐木)

かつていい林業を
目指して



2学年 沼田 豊輝

私が林業の道を目指そうと思っただけは、小学生の時の社会科の授業でした。林業の労働人口が昔と比べて減ってきていると学び、当時から釣りやスキーなど自然で遊ぶことが好きだったので、私にうってつけの職業だと感じました。

そこから月日が流れ、林大に入学し、もうすぐ卒業を迎



2学年 11月 林業機械学実習 (高性能林業機械操作)

えます。入学したときは、初めて親元を離れて生活することに不安もありましたが、寮生活だったので仲間とすぐに打ち解けることができました。勉強など大変なこともありましたが、林大での毎日はイベントが絶えず、とても楽しいものでした。

四月からは長野県の東信地域で、素材生産の事業体に就職します。技術はゼロに等しい新人ですが、「働いて、働いて、働いて」自分の限界に全力で挑戦しながら技術を身につけ、林業を知らない人にも「林業ってかっこいいな」と思ってもらえるような仕事をしたいです。

最後に、今まで私を支えて

くださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

二年間の林大生活を
振り返って



2学年 脇田 潤

長野県林業大学校に入学してから早くも二年が過ぎ、気づけば卒業までの時間も残りわずかとなりました。多くの不安と新生活への期待を胸に



2学年 11月 森林管理コース (治山工学)

入学した日が昨日のこのように思い出されます。

しかし振り返れば、一年次の屋久島研修やトップガン研修、二年次の北海道研修に加え、二十年に一度の「御杣始祭」や「みこしまくり」など、木曾ならではの文化にも深く触れる



2学年 1月 特別講習 (ドローン講習)

充実した日々でした。特に力を入れた自主研究では、特技の木工技術を活かし、「未利用材の用途開発」をテーマにカラマツの枝から様々な試作品を製作しました。寮祭で試験販売を行い、多くの反響をいただいたことは大きな自信となりました。私の木工作業のために夜遅くまで学校に残り、授業以外でも熱心に指導してくださった先生方には心から感謝しています。

また、生活面でも温かい支えがありました。特に、偏食の私に合わせてほぼ毎食、わ

ざわざ別の主菜を用意してくださった寮母さんの優しさには感謝してもきれません。木曾の豊かな自然と木の文化に囲まれたこの環境は、私にとってこれ以上の学校はないと思える最高の場所でした。そして何より、苦楽を共にした四十六期の仲間たちとの寮生活は、一生の宝物です。

四月からは地元に戻り就職します。木曾で頂いた恩を忘れず、培った技術と絆を糧に、新たな一歩を踏み出します。

保護者の
ページ

絵

の

一言

経験を感謝に

伊藤 志穂



息子が林大へ入学し一年が経とうとしています。

自分で選んだ道を
歩んでほしい

神山 明彦



林業大学校にお世話になります。早くも一年が経とうとしています。家族に頼るのが上手な息子が一人で寮生活ができるのだろうか心配をしました

林大ではたくさん体験や経験をさせて頂いています。

入学し早々に、屋久島への研修がありました。天候に恵まれ、素晴らしい景色を見ることができ、縄文杉やウィルソン株での記念撮影など、どれも羨ましい限りでした。

また、日々の授業でもチェンソーの実習など専門授業を受け、さらに地域の皆様との交流などもさせて頂け、社会勉強も同時に学べるというこ

が、何とかやっているようです。

家に帰ってくると以前よりも息子と会話することが増えたように思います。「五十年前に植林をしたカラマツは活用期を迎えているが、その活用方法が課題」であるとか「国内の木材を材材にする」と輸入材の二倍のコストがかかってしまう」とか、昨年たびたび報道された「ツキノワグマの被害は鹿の個体数の増加と関係があるという説もある」など、学校で学んだことに刺激を受けてか、楽し気に

とに親としても感謝しております。

毎週寮から帰宅すると、寮での出来事を話してくれ、週末になると今週はどんなことがあったのかと話を聞くのが楽しみになっています。寮生活では気を遣うことも多いとは思いますが、貴重な経験であり、どんなことでも「有り難し」に変えていってほしいです。

いよいよ残り一年。自分の目標に向け悔いが残らないよう、精一杯励んでほしいと思います。

語ってくれます。あるいは「こんな授業が楽しかった」「先生に進路の相談にのってもらった」など、先生方のお陰で充実した生活を送ることができているようです。

小さい頃から自然や動物に興味があった息子は、木曾のことが大好きだと言います。自分で選んだ道をこれからも歩んでいってほしいと思います。

林業大学校での
成長と感謝

鈴木 智弘



期待と不安を胸に息子が林業大学校へ入学してから、早いもので一年が過ぎようとしています。県産材の温もりにも

包まれた学生寮での共同生活は、親の手を離れ、自立心と仲間との絆を育む貴重な時間となりました。

この一年、学校での講義や実習だけでなく、歴代の先輩方も経験してきた飲食店でのアルバイトにも挑戦しました。実際の社会生活の厳しさに触れ、息子にとって「生きた経験」となったはずで

不慣れた作業に、戸惑うことや上手く出来ないこともあったかと思いますが、根気強くご指導くださった先生方、そして温



1学年 10月 ハスクバーナトップガン研修 (ステップ2)

かく支えてくださった地域の方々、心より感謝申し上げます。二年目も、この恵まれた環境で挑戦を恐れず貴重な経験を積み、志を同じくする仲間と共に大きく成長し、林業の未来を担う一員としてさらに精進していきます。

変わる夢

福田 靖男



息子が高校二年生の頃、林業を仕事にしたいと言いはじめました。高校は建築科に通い、次は林業の学校に進学。何を目指しているのか分かりません。でも、実家に帰省した時はどんなことをしているのか誇らしげに語ってくれました。息子の話を聞くと、学校の生活は楽しく充実しているようで安心しました。

そうすると次は樹護士アーボリストになりたいと言いだしました。全くの初耳。初めての言葉。また熱量多く語り始めました。遠い場所での練習会にも何度も足を運び、無我夢中に取り組む姿は子ども頃から何一つ変わりません。好きなことには一生懸命です。五歳くらいの頃、近くの公園で器用に木を登っていく姿を思い出しました。

来年の春には、学校を卒業して独り立ちをします。残すところあと一年、どう過ごすかは息子次第です。また目標が変わるかもしれませんが、それも良いでしょう。色々、人と触れ合い成長して欲しいです。

将来を見据えて

三浦 徳彦



私は息子のやりたいことを全力で応援しようと思いません。

卒業にあたって

石原 優



2学年 1月 山の環境学 (乗鞍高原)

木曾青峰高校森林環境科での学びを通して、子どもは自然や環境について深く考える力を身につけることができました。その経験を生かし、将来の進路を見据えて長野県林業大学校へ進学するという決断をしたことを、保護者として大変うれしく思っております。高校で培った知識を土台に、さらに二年間大学校で学び、自分の将来の道を主体的に切り開いていく姿勢に成長を感じています。進路や職業の選択には悩みもあると思いますが、さまざまなことを学びながら、自分に合った道を見つけていってほしいと願っています。友人にも恵まれ、充実した学生生活を送っているようで、安心しております。

二年間、未熟な息子を温かくご指導いただき、本当にありがとうございます。林業の専門的な知識や技術だけでなく、全寮生活の中で仲間と支え合い、人との距離感を学ばせていただいたことは、親として何よりありがたく感じています。共に過ごした仲間たちは我が家や店にもよく足を運んでくれる大切な存在となり、息子にとってかけがえのない財産です。

卒業を迎えて

上田 美佐緒



親元を離れ、遠く離れた場所での寮生活をしなければいけない事、ふれた事もない林業を学べるのかなど、不安でした。小学校一年生から高校三年生まで、担任は代わるのに毎年言われる事は同じ(笑)。授業はいつも半分は聞かず外を見て。そんな子が特別な内容についていけるのか、とても心配でした。

林大に入學して早くも卒業となりました。『林業大学校に行きたい』と、聞いた時は母の私はもちろんの事、親族皆驚いてました。

そんな中、女の子が二人いてくれて心の支えになった事でしょう。

先生方、いつも色々親身になって頂き、温かくご指導下さりありがとうございます。今日まで共に汗を流してきた仲間の存在は、これからも一生の支えになると思います。

素晴らしい林業家になれるように一歩ずつ進んでいって下さい。

**新たな
スタートに際して**

篠田 義一



「林業をやりたいなら林大に行きなさい」地方公務員を辞め「林業をやる」と言い出した時に掛けた言葉である。年齢が一回りも違う集団に入り、寮生活をしながら学ぶ事に少しの躊躇もない姿を見て、辞める理由は聞いたが、引き留めはしなかった。無給となる状況に「二年は人生の誤差だ」とも言った。真剣に学んで来いという激励のつもりで言った。その二年間が残り数か月で終わる。その間、林大の講師方をはじめ大勢の方々のお世話になった事と思う。感謝の気持ちを持ち続け、その経験、体験を今後に生かして貰いたい。

林業、特に素材生産業は非

常に危険な仕事の連続です。「常に予測・想像する」という考える力を更に高め、人・物を大切にし、最後は山の神様に嫌われない様行動する事が肝要です。四月から一緒に働きます。安全第一、健康で！「さあ、やるぞ」。

ご縁を大切に

土井 寛



息子は、中学生の頃「自然の中で仕事がしたい」と言っていました。

高校二年生で林業と出会い、チェンソーを使った仕事が出来ると夢が現実的なものになっていきました。

体の線が細い息子に重労働で危険を伴う仕事が耐えられるのか、林大の生活に馴染むことが出来るのか、心配は尽きませんでした。

寮生活が始まり、時折帰ってきては意気揚々と林大生活

の様子を話してくれました。家族のように親身に関わって下さる先生や、同じ道を志す仲間が出来たことが何え、こちらまで元気をもらいました。

今、卒業を目前として、就職に向けて準備をしている息子。二年間の様々な経験をを通して、色々な人に支えられて今があります。

「お陰様」という言葉は、普段たとえ気が付かない所でも自分に働きかけてくれる「ありがたいさ」に感謝することを言います。お陰様の心を忘れないように日々を過ごしてほしいものです。

自然と向き合う仕事は大変なことも多いと思いますが、一歩ずつゆっくりでもいい、自分らしく道を切り開いてほしいと願います。



2学年 1月 体験研修（そば打ち）

**かけがえのない
二年間に感謝します**

堀 京子



第四十六期生の皆さん、卒業おめでとうございます。学生たちの個性を尊重し、丁寧なご指導をして下さった先生方、お祭りなど行事に

快く参加させて頂き下さった地域の皆様に深く感謝申し上げます。

皆さんは「三智」という言葉をご存じでしょうか？

「人の世には三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智がそれである」木曾に深く由来のある明治の文豪、島崎藤村の言葉です。私はこの言葉をモットーに我が子と過ごしています。息子が「山や森に携わる仕事があった時、まさに「三智」だと思います。知識を学び、寮という環境で世の青年期よりかなり濃い交流をし、自ずから道を選び、本当に凝縮された二年間だったのでないでしょうか。

社会に出れば、苦しい時があるでしょう。そんな時は林大を思い出してみてください。この二年間の学びと仲間は力になってくれるはずです。



挑戦を楽しめる
人が林業を
変える



第七期
木次 勲

第四十六期生の皆さん、卒業おめでとうございます。四十七期生も林業大学校での学びも深まり、現場を意識する機会が増えてきた頃でしょ

林大の二年間を
振り返って



二学年担任
百瀬 浩行

私が林業大学校に赴任して早くも二年が経とうとしています。初めて母校の教授として職に就き、さらに四十六期生の担任を任せられ、不安とやる気とプレッシャーと色々な思いが入り混じった中で、皆さん

檜のアドバイス

うか。私は第七期生としてこの学校を卒業し、現在は長野県職員として森林・林業行政を担う立場にあります。現場での経験と行政の視点から、皆さんにお伝えしたいことがあります。それは「挑戦を楽しむ心」が、これからの林業を支え変えるということ

に直面することもあります。しかし、そこで「どうすればできるか」を考え、試行錯誤する過程こそが成長の源です。失敗を恐れず、むしろ「新しい方法を試すチャンスだ」と前向きに捉える人が、現場を変え、林業の未来を切り拓いていきます。

決すべきテーマは山積みです。しかし、こうした課題は皆さんにとって挑戦の舞台でもあります。現場で培った知識や技術を活かし、地域と連携しながら新しい仕組みを作る——その挑戦を楽しめる人こそ、林業を前進させる力になります。

し、失敗し、また挑戦する——その繰り返しが、現場で判断できる力を育てます。そして、挑戦は一人ではできません。仲間との信頼関係、地域の方々とのつながりが、挑戦を可能にします。林業は決して楽な仕事ではありませんが、森を育て、地域を守り、未来に資源を残すという誇りある仕事です。どうか、挑戦を恐れず、楽しんでください。皆さんが現場で新しい風を吹き込む日を心から楽しみにしています。

の前に立ったことを思い出します。

皆さんも初めての共同生活が始まる中、オープンキャンパスでも、入試の面接でも見たことのない私が担任と分かった時にはさぞ不安だったことでしょう。

そんなお互いのスタートから、始まった林業大学校生活でしたが、私はすぐにそんな不安が解消していきました。周りの先生方が学生全員を気にしてくれ、私自身も支えられました。学生の皆さんは、一度注意すれば直すこと

ができるほか、学生同士の助け合いはもちろんのこと、私が困っていれば助けてくれるなど、二学年になった時は本当に安心して皆さんに任せることができました。

私が一番印象に残っているのは、皆さんと一緒に受講した技能講習です。苦手な学生へのアドバイスやお互いの技術を競い合ったり、冷やかしたりしながら、全員が合格した姿を見て、とても頼もしく感じました。

四月からはそれぞれ社会人。林業大学校で学んだ知

識、技術、そして仲間と共に培った寮生活での経験はいつか必ず役に立つと信じています。いえ、役立ちます。

私の経験上、中でも「林大の絆」がとても貴重だと感じています。林業大学校の卒業生も今年で約九百人となり、先輩後輩問わず「林業大学校の卒業生なんです」と言う方と知り合う機会がとて増えました。

同じ林大卒業生と分かると一気に親しみを感じ、「私たちの学校生活ってこんなことありましたよ」と学校の話題で話はずみません。もし仕事

上で知り合ったのなら、相談しやすく、助けてくれる存在になってくれるはずです。

人生の中でほんの少しの時間ですが、二度と体験できない、とても貴重な経験と絆を培った時間だったと思います。最後に皆さんに伝えたいこと、とにかく体を大切にしてください。

肉体的にも精神的にも自分自身への「安全確認」を怠らず、新しい生活での活躍を心よりお祈りしています。困ったことがあれば相談してください。私も「林大の絆」の中の一人です。

林大生の活動報告

日頃から地域の行事に積極的に参加し、住民の皆さまとの交流を深めていくことが、学生一人一人の成長へと繋がっています。ここでは、今年度後半の活動の一部をご紹介します。

寮祭（木望祭）（10月4日）



学生自治会が準備を進め、実行委員長を中心に開催しました。当日は雨が降り肌寒いあいにくのお天気でしたが、保護者の方のほか、地域の皆様も多数ご来場いただき、各ブースも盛況でした。

学生によるスゴ技披露では、北原睦晴（ともはる）君がグラッフルでの丸太積上げ自己最高記録を更新!!

JLC 鳥取（10月18日～19日）に出場



第4回日本伐木チャンピオンシップin鳥取が開催され、2年生の伊藤千紘（ちひろ）さん、伊藤優祐（ゆうすけ）君が出場しました。残念ながら決勝へ出場することはできませんでしたが、休日や講義終了後に練習して積上げてきたことは今後の糧になることでしょう。

木曽町駅伝大会（10月19日）に参加



1、2年生合同の3チーム（林大チームA、チームヌプチェ、チームシグマ）が、1本のたすきを繋いでゴールを目指しました。一般参加31チーム中、最高順位は林大チームAで結果は11位でした。

多くの皆さんの応援を受け、気持ちのいい汗を流すことが出来ました。

3校連携地域学習バスツアー開催（10月22日）



木曽青峰高校、林業大学校、上松技術専門校の3校連携推進のため、木曽青峰高生が林大と技専の施設及

び実習状況の見学等を行うことで理解と交流を深めました。

三林大伐木選手権大会（11月20日～21日）



岐阜で行われた、三林大（長野・京都・岐阜）伐木選手権では、同じ林業を志す者同士、日頃の林業技術の成果を競い合いました。残念ながら優勝は逃したものの、熱い交流を深めることができました。来年度は本校での開催です。更に技を磨いていこう。

雪灯りの散歩路（2月5日～8日）



木曽路の冬の夜を彩るイベントに、林大生はスタッフとして、アイスキャンドル作り、運搬設置から当日の運営、後片付けまで4日間を通じて参加しました。夜の闇の中で灯る光に心を癒され、また、寒さが厳しい中、頑張りました。

妻籠宿・水舟製作プロジェクト（1月30日～2月17日）



南木曽町の妻籠宿街道沿いに設置されている「水舟」の製作依頼があり、2年生の脇田潤（じゅん）君が中心となって、南木曽町出身の堀望実（のぞみ）君、牧野大河（たいが）君ら有志がチェーンソーを駆使して製作しました。町から提供された天然サワラを活かした水舟、妻籠宿に訪れた際は是非ご覧ください。



林大HP



facebook



instagram



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058